

福島第一原発事故から8年

～2011年 2019年 そしてこれから～

17 都県「放射能測定マップ+読み解き集」を使いになそう!

2019年3月23日(土)

14:30～17:30

場 所 仙台シルバーセンター
7階第一研修室(仙台駅徒歩8分)

参加費 無料

- 内 容
- 「放射能測定マップ+読み解き集」 解説 大沼 淳一
 - 宮城県の読み解き 大沼 淳一
 - 「県内のプルームの挙動」
「オートラジオグラフでみられる宮城県内の汚染の地域差について」
三田 常義 (「てとと」運営委員)

主 催 みんなのデータサイト
みんなの放射線測定室「てとと」
連絡先 0224-86-3135 「てとと」
E-mail sokuteimiyagi.biglobe.ne.jp

《大沼 淳一 プロフィール》
「読み解き集」編集スタッフ
未来につなげる・東海ネット 市民放射能センター
(C-ラボ) スタッフ

※「みんなのデータサイト」には、県内では「てとと」以外に「小さき花市民の放射能測定室(仙台)」
「角田市民放射能測定室」が参加しています。

※この講演会は、「一食平和基金」「高木仁三郎市民科学基金」の助成金を活用しています。





「放射能測定マップ+読み解き集」

って?



全国31の放射能市民測定室の参加するネットワーク「みんなのデータサイト」が、延べ4000人の市民が採取した3400地点の土壌を地図に落とし解説をつけ、1冊の本にまとめました。

「空間線量は事故前とほぼ同じに下がりました」という説明はどうも信用できない、本はたくさん出ているけれど難しく読み切れない、大丈夫から危険までの幅がありすぎて何を信じてよいかわからない……。この本は東北6県、関東7都県、新潟、山梨、長野、静岡、3400地点の土壌からのメッセージです。データに忠実に事実を解説する……。それが『放射能測定マップ+読み解き集』。放射能環境時代を健やかに生き抜くため、使いこなせるようになりませんか？

朝日新聞DIGITALで紹介されました!

■市民が各地で続ける地道な調査

2011年の福島第一原発事故以来、われわれは放射能に関するたくさんのデマや偽情報に翻弄（ほんろう）されてきた。国や東電の出す情報が信用できないだけでなく、テレビも新聞も鵜呑（うの）みにできない状況が続いている。

どうみても疑わしいのに安全を言い募るもの、心象だけで過度に危険をあおりたてるもの、そうしたたくさんのノイズに翻弄され、専門知識がない自分は、不安と後ろめたさを抱えながらも、気がつけば事故から目をそらして暮らすようになってしまった。当事者意識が足りないと批判されれば甘んじて受けるほかない。

そんななかで手にとったこのデータ集は、市民が自らの手で放射能を測定しマップ化したもので、かなり公正な情報なのではないかという手ごたえを感じさせてくれた。

市民がつくる全国33の測定室が、東日本17都県の放射能測定マップのほか、牛乳、米、川魚、海水魚、ジビエ、キノコ、山菜などについて汚染状況をまとめている。

事故から8年近く経ち、本書からは、多くの品目で測定値が検出限界以下に下がってきている状況が見てとれる。一方でいまだ深刻な汚染が残る地域や品目も具体的に明示されている。

廃棄物の管理状況にも懸念が多い。原子炉施設内で厳重に管理される放射性物質が100ベクレル/kg以上なのに対して、事故以降8千ベクレル/kg以下は一般廃棄物として処分しているという、被害をもたらした側に都合のいい法律がまかり通っている現状、チェルノブイリでは強制移住レベルの汚染区域が日本では避難指示区域外であることなど、国の対応のひどさには暗澹（あんたん）たる気持ちになってしまう。だからこそこうした取り組みが必要であり、地道に調査を続けられている方々に敬意を表したい。

専門家でない市民が正確に測定できているのか気になるが、その技術的取り組みについても説明がある。